佐渡を世界遺産に

世界遺産登録に向けて

鶴子銀山(14)　その後の田中清六

佐渡代官を罷免された田中清六は、かねてから北国海運の拠点としていた敦賀に戻ります。そこには、鶴子や相川金銀山に必要な資材・道具類を集積する蔵屋敷が幾棟も建てられていました。

清六は、佐渡代官を改易された中川主税や、切腹となった吉田佐太郎など旗本とは異なり、有力な「近江商人」なので再度廻船を営むことができました。『田中宗親書上』には「清六は商人で、茶屋四郎次郎・後藤庄三郎と同様であると人々は心得ている」と、徳川家康を支える豪商の一人として記述されています。

このため、佐渡代官頭となった大久保長安は、慶長9年（1604）4月8日付けで、佐渡浦々の船奉行に対し、「清六の船六艘の内、御朱印を与えている船の諸役を免じる」旨の文書を出しています。

こうして清六は、敦賀を中心に奥州諸藩と上方を結ぶ廻船商人として活躍します。その後二子をもうけ、晩年には剃髪をして常秀と号し、京都に隠居します。長男は、二代清六として敦賀で田中家を継いで廻船業を営み、次男は京都清水寺の僧となり、宗親と号して『宗親書上』を書き上げます。

また、清六の一門である田中宗徳は、山師として相川金銀山のふもとに宗徳町を拓きます。そして、娘の「おはな」を大久保長安に側女としてさしだし、金銀山経営に深いつながりを持つことになります。

明治末頃の宗徳町
大島高任鉱山局長にちなみ高任地区ともいわれる

問 産業観光部世界遺産推進課 ☎63―5136

新しい国際交流員 7月31日に着任！

佐渡市の皆さま、こんにちは！

私は、シンガポールから参りましたJasper Soh Bi Yu (ジャスパー・ソウ・ビ・ユウ) です。

佐渡に来て、佐渡の豊かな自然を自分自身で体験して、とてもきれいだと感じました。これからもっと、佐渡の魅力を、特に佐渡の文化や習慣などを学び、世界のみんなに伝えて行きたいと思っています。

また、出前講座などを通じて、シンガポールの文化や習慣を皆さんに紹介したいと思っています。

まだまだ日本語は上手ではありませんが、精一杯がんばります。

皆さまよろしくお願いします。

中国とシンガポールの文化・生活を紹介します

国際理解出前講座をご利用ください

市内の自主講座へ国際交流員を講師として派遣し、わかりやすくご紹介します。

学校や公民館、商工団体などが市内で主催する、参加者がおおむね10人以上の講座です。

ぜひ、ご利用ください。

お問い合わせ　産業観光部観光振興課　観光振興係　☎67―7944